2 Mp-12

蹴鞠装束に関する研究（第４報）－鞠袴－

○弓削公子

［目的］前報では、鞠袴の布地の原料→織糸→織布→製品の過程と構成法など現存する他の袴との比較を報告したが、今回も、引き続き鞠袴について、色彩、意匠学的見地から考察する。

［方法］京都国立博物館、京都府立資料館、かすみ会館（旧華族会館）、井筒、平野神社（大津市の蹴鞠神社）、天理参考館などの所蔵資料を実測調査した。

［結果］京都国立博物館所蔵の最も古い資料である江戸時代の嘉永６年の紅袴をはじめとし、明治、大正、昭和、平成の現在に至るまでの鞠袴３５点を実測調査した結果、次の事が明らかになった。

（１）身分や階級による、色や文様の種類に区別があること。

（２）新調する時期は特別な行事や政治的事情によるもの。

（３）意匠法に儀式の軽重差があること。

（４）公家（有職）文様が随所にみられた。

（５）主として植物文様が多く使われ、次に鳳凰などの慶賀をあらわす動物文様、その他幾何学文様なども好まれた。